

(リスクアセスメント)作業手順書 防草対策取替工

会社名	中日本ハイウェイメンテナンス名古屋株	施工ケース	主な設備、仕様機械	主な使用工具、器具	安全設備、保護具	使用材料
作成日	令和2年12月11日		ユンボ0.1m ³ ・10tセルフ	剣スコ、角スコ、石頭ハンマー	保護眼鏡、保護帽、手袋、安全靴	マルチングシート、マルチ用テープ
改訂日	令和3年4月1日		ダンプトラック・トラック	カッター、カルマー、チェーンソー	安全チョッキ、防護ネット	シーリング材、アンカーピン、端部用プラグ
作成者	深井			インパクトドリル	耐切削性手袋、チャップス	
必要資格等	刈払い機作業講習、チェーンソー講習、運転免許(旧普通・中型)、職長教育講習、小型車両系建設機械			作業人員	4名	その他
				保安人員	1名	

可能性	1:ほとんど起きない (5年に1回程度)	2:たまに起きる (1年に1回程度)	3:かなり起きる (6ヶ月に1回程度)
	頻度率:1	頻度率:2	頻度率:3

重大性	軽微 (不労災害)	重大 (休業災害)	極めて重大 (死亡・障害)
	危険度:1	危険度:2	危険度:3

評価	対策変更の 必要なし	対策が必要	即座に対策 が必要
	1~2	3~4	5~9

作業工程	施工ケース	No	単位作業とその主な手順	危険有害要因(予測される災害・事故) (品質、トラブルも含む)		評価		危険有害要因低減対策	誰が 点検・確認	対策後		参考図(別紙も可)			
				可能性	重大性	可能性	重大性			評価	評価				
準備作業	共通	1	・作業前ミーティング 新規入場者のチェックをする。	現場、施工方法等について十分な知識を有していない。	2	2	2	新規入場教育の受講	職長	1	2	危険有害要因低減対策、施工要領、図面、写真等(別紙)を参照し、作業現場に貼付すること。			
		2	健康状態を確認する。	風邪、飲酒等により正常判断ができない。	2	1	2	体調の確認、アルコールチェックを行う。	職長	1	1				
		3	服装、保安用具の点検をする。	自発光チョッキの球切れがある。からまんでの音が鳴らない。	2	2	4	規制員に、事前点検を実施させる。	全員	1	2				
		4	機械・規制材等の準備、点検をする。 (備った規制材は使わない、点検確認)	協議書に基づいた規制材でない。車両の不具合。 規制時に視認性が悪い。	2	1	2	担当者との協議書を元とする事前打合せをする。 事前点検を確実に実施する。	全員	1	1				
		5	朝礼、KVIミーティングを行う。	漠然と現場に入り事故を起こす。	2	1	2	KVIミーティングにて危険箇所を確認する。	全員	2	1				
		6	作業手順の確認をする。	各自の作業が分かかっていない。現場で不安全行動を起こす。	3	1	3	個人の作業内容、作業手順を確認する。	全員	2	1				
		7	車両点検、荷姿、フレートチェックをする。	積荷等が落下する。 規制材の落下。 業務用プレートの不正使用。	2	2	4	車両点検、荷姿チェックを自主とメンテ職員に行う。 ラコンなどをアオリより出さない。ロープによる養生。 プレートチェックを自主とメンテ職員に行う。	全員	1	2				
移動	共通	1	・現場への移動 交通ルールを守り運転する。	人身、物損事故。携帯電話使用。シートベルト、あおり運転。	2	3	6	nexcoの員であることを見逃して運転する。ドライブレコーダーの正常に動作を確認する。	運転手	1	3				
		2	高速道路に入る前には、プレートを確認しておく。	プレート区域外使用。	2	1	2	車両点検時、荷姿チェック時に確認しておく。 (自主、メンテ職員)	全員	1	1				
		3	出発。(後尾は閉路無線を入れてから)	管制センターが状況判断できない	2	1	2	出発前には閉路するよう徹底させる	後尾助手	1	1				
		4	最寄り休憩施設、BS等へ待機。	駐車スペースが無く、一般車両と干渉	2	1	2	一般車両に配慮して駐車する。BSでは回転灯やハザード点灯する。	運転手						
		5	車両は、ハンドル切、サイドブレーキ、 停止を必ずする。	車両が動いて、他のものに接触する。	1	2	2	運転中には、ハンドル切、サイドブレーキ、 停止を必ずする。 営業のプレートは掲げる。(必ず行う)	全員	1	2				
草刈作業	共通	1	植栽草刈り作業手順書に準じる												
		2	植栽伐採作業手順書に準じる												
樹木伐採	共通	1	植栽伐採作業手順書に準じる												
		2	植栽剪定作業手順書に準じる												
本作業	共通	1	試掘作業。(新設・表示板がある場合)	埋設ケーブルの誘導と視地確認。 試掘時にケーブルの損傷。 配線状態の確認。	1	3	3	ある程度、掘り進めたらケーブルを傷つけないよう慎重に掘る。 電線ではなく、筋帯を掘り配線の確認。	作業員・職長	1	3	3			
		2	劣化シートの撤去	破損アンカー撤去時に手に刺さる。 劣化シート撤去、切断時にカッターナイフで手や指を切傷する。 劣化シート撤去時にシート上の小石・砂等が風の影響で飛散する。 強風によって劣化シートが飛散する。 運搬中に荷台から飛散する。	2	1	2	耐切削手袋の着用する。 耐切削手袋の着用する。 シートの撤去時に飛散物は撤去する。 飛散等の恐れがある場合は2名以上で作業する。 荷台に飛散防止ネットをかける。	作業員	1	1	1			
		3	すきとり作業。	土中の巨石により、アンカーピンを入れることが出来ない。 重機作業で作業員と接触する。 重機作業で構造物と接触する。 巨石運搬時に、怪我をする。 すきとった土砂が排水溝に入り詰まる。	1	1	1	めばしい巨石は撤去する。 重機の作業範囲内に作業員の立ち入りを禁止する。 重機オペレーターには資格者が行う。近接の場所には監視員を配置する。 一人で運搬不可の場合は二人以上で運搬を行う。 土のたまりを、小分けにして運搬作業を行う。 流出土砂の持ち出しをする。	作業員・職長	1	1	1			
		4	マルチングシート敷設作業。	小木等により、マルチングシートが損傷する。 切断時に怪我をする。 アンカーピン打設時に均一に打設出来ない。 マルチングシート敷設範囲内にケーブル発見時 端部処理に伴うかぶりの不足。 経済的に合理的な敷設を行う。 新材料(シート)を場内に搬入時に転倒する。 新材料(重置物)を場内に搬入時に腰を痛める。 敷設作業時に風圧によってシートが飛ばされ作業員が転倒する。	1	1	1	発見時に取る又は、前段階の作業時に邪魔になることが予想されるため取り除く。 耐切削性手袋を必ず着用する。 切断方向に体を置いておかない。 作業範囲内に人がいないかどうか確認してから切断を行う。 打ち込む場所の目印をあらかじめ付けておく。 メジャー等の使用。 マサヒに作業変更 上のシートか下のシート、どちらの破りを使用するか決めておく。 端部及び巻き込み部等、重機でシートを敷設できない場合、切断したシートで使用するものは、使用する。 シートのため目を覆う力が少なくなる。 2m幅のシートは2名で持ち搬入する。 2名以上で運搬するが台車等を使用して運搬する。 シートの敷設は必ず2名以上で実施し、飛散しないように端部より順次施工していく。	作業員	1	1	1			
		4	アンカーピン打設作業。	ケーブル配線部に打ち込まない。 打ち込み時に、石頭で怪我をする。 アンカーピンで怪我をする。 打ち直しに伴う、マルチングシートの損傷。	1	3	3	事前に目印を付けておく。 打ち込み前に情報を共有しておき、ケーブル近くで打設しようとしている人がいれば注意しておく。監視員を配置する。 手元注意。 思い切り振りかぶり使用しない。 戻り手袋や締めを使用する。 耐切削手袋の着用。 先端部を人に向けない。 使用時以外は、並べて置いておく。 転倒したときのことを考え、多量に持ち歩き行動をしない。 すきとり時に、巨石等アンカーピン打設時に邪魔となるものを取り除いておく。	作業員	1	1	1			
		5	端部処理作業。	直線的にマルチ用シートを貼る。 アンカー打設時にシートがたるむ。 接着剤(ポンド等)を使用する際、目に入る。	1	1	1	一人でシートを貼るせず、二人で作業する。 シートを張った状態で、アンカー打設を行う。 すきとり時に、平坦にしておく。 保護メガネの着用。(作業状況による)接着剤の付いた手袋で、目をこすらない。SDSを携帯し対応を通知する。	作業員	1	1	1			
		移動	上部記載												
		離脱	共通	1	・作業後ミーティング 報告業務	作業の進捗、施工完了場所、次回作業の報告忘れ	3	3	9	進捗、作業状況、次回作業場所の確認を全員に周知する。	全員	1	3	3	
				2	現場の問題点、業務に支障がでる報告忘れ	現場の問題点、業務に支障がでる報告忘れ	3	3	9	問題点、注意点は全員に共有する。	全員	1	3	3	
				2	機械・規制材等の故障報告をする。	機械・規制材の故障によって次回作業ができない。	3	3	9	故障や破損は当日に報告し交換が必要なら交換しておく。	全員	1	3	3	
		共通事項	<p>(1) 路肩作業箇所の上流側での注意喚起等による安全対策の徹底!</p> <p>○1人作業は極力回避する。作業時に一人となる場合は、安全な場所に待避する。 ・やむを得ず行う場合は保安員の監視の下で実施。 ○交通監視員(交通誘導員)を必ず配置する。 ・緊急時の合図や連絡場所も確認 ○通行車線側での作業は原則的に行わない。 ・やむを得ず行う場合は保安員の監視の下で実施。</p> <p>(2) 路肩停止車両の右側走行車線側での作業の禁止! 下記①~④の内、いずれかの対応を実施。 ①荷台アオリ部へのアオリクランプの設置(社有車対応済み) ②車両右側フックへのカラビナ付ロープの固定 ③リース車等においてはロープ固定による取付(金具等未対応車両) ④直近の休憩施設や連絡等施設等の安全な場所にてシート、ネット掛けの確認。</p> <p>(3) 車両への乗降は、供用車線の反対側から乗降! ○乗降車等で供用車線の反対側からの乗降が困難な車両は除くものとする。 ○やむを得ず供用車線から乗降する場合は、上流側に監視員を必ず配置し乗降により乗車する。 ・降車時は監視員が先に供用車線の反対側から降車し、乗車時は監視員が最後に供用車線の反対側から乗込む。</p> <p>(4) 車両進入時の安全対策(下記のいずれか、もしくは両方) ○大型車両(縦向き設置車)の配置 作業現場より20~40mの位置に配置(現場にあわせて移動) ○とまるくん、とまるゾウの配置 作業現場より80mの位置に設置(作業現場が動くときは、とまるゾウも現場にあわせて移動する。)</p>												